東洋大学 TOYO UNIVERSITY
Toyo University Student-Initiated Faculty Development Research Team
学生ＦＤ研究チーム　～学生の主体性あふれる大学を目指して～

News Letter

2012・4
No. 4

2011 年 11 月 26 日「授業改善事例シンポジウム発表」

「学生がのぞむ授業向上とは？」

学生ＦＤ研究チームリーダー 曽根 健吾　メンバー 原田 鈴彦

学生が直接声を発信する、初めての試みとして

2011 年 11 月 26 日、FD 推進センター主催教職員対象「授業改善事例シンポジウム」が白山キャンパスにて開催されました。内容の多くは先生による IT 機器を活用した授業事例の報告でしたが、今回学生ＦＤ研究チームから「学生がのぞむ授業向上とは」というテーマの報告がありました。

学生ＦＤ研究チームでは、2009 年に本学で学生ＦＤ活動をスタートさせて以来しゃべり場の開催、先生インタビューや学外での交流を通して学生の声を集約しています。今回、これらの活動を通して集約した学生の声を教職員の皆さんへ直接発信する機会となり、シンポジウム自体も学生からの報告の場は初めての企画でした。

はじめに学生ＦＤ研究チームの取り組みを紹介した後、そこから明らかになった「学生がのぞむ授業向上、よい授業とは」「学生がのぞむよい授業を実現するために」といった点を中心にプレゼンしました。

発表内容の要旨は後述の通りですが、神田ＦＤ推進センター長からコメントをいただいたほか、参加者のアンケートにおいて学生ＦＤ研究チームの発表への関心が高かったと聞き、学生ＦＤ活動に対する意識・関心の高まりを実感しました。

研究チームの活動を通して集まる学生の声やそこからわかることを教職員の皆さんに適宜発信していくことは、学生ＦＤ活動において非常に重要なアクションであると考えています。今後も教職員の皆さんとの三位一体でよい授業を作り上げたいという意識を高く持ちながら取り組みを進めていき、本学で学生視点に立った教育活動が展開されるよう力を尽くしていきます。

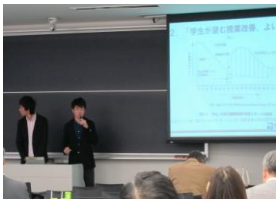
「学生がのぞむ授業向上、よい授業とは」

（１）学生が授業を受ける環境

・学生側が受講する姿勢は、大前提として、「寝る人」「おしゃべりする人」がいないこと。
・受講者が少人数の授業は、先生との距離を近く感じることができ、意欲が湧く。

（２）先生について

「先生」については、学生が授業を意欲的に受講する上で、話し方や学生への接し方といった点が重要との声が多く挙がっている。



（３）先生の指導、授業内容の工夫

①グループワーク、ディスカッション、ディベートの活用
→講義とのバランスが重要である。

②先生と学生との双方向授業
一方向の授業→学生のモチベーションが上がりにくい。
・コメントペーパーの活用。
・レポートに、採点やコメントをつけて返してしてくれる。

③授業の内容
・授業内容に、日常生活との関連性を感じると授業がおもしろいと思う。
・簡単すぎると、授業はつまらない。

CONTENTS

P1：授業改善事例シンポジウム発表報告
P2：「学生 FD NEXT 1」開催
　関東圏ＦＤ学生連絡会学生ＦＤスタッフ募集中
P3：学生による授業紹介～倫理学概説～
　「2012 年度第１回しゃべり場を開催します！
P4：学生 FD 研究チーム活動報告（明治学院大学連続企画参加 など）

「学生ＦＤ　ＮＥＸＴ　１　」開催

関東圏の大学における学生ＦＤ活動の活性化と学生の主体性向上を目指して

関東圏ＦＤ学生連絡会マスコット
おじかちゃん、めじかちゃん

2012 年 3 月 10 日(土)に法政大学市ケ谷キャンパスにて「学生ＦＤ　ＮＥＸＴ　１　～集まろう！繋がる点と広がる輪～」（関東圏ＦＤ学生連絡会主催）が開催されました。

「関東圏ＦＤ学生連絡会」は、法政大・東洋大・青山学院大・立教大の 4 大学から学生が集い、学生ＦＤスタッフとして教職員と連携しながら授業をはじめとする学生生活の向上に向けた取り組みの実施を中心に活動しています。

3 月 10 日の「学生ＦＤ　ＮＥＸＴ　１」は西高東低といわれる学生ＦＤ活動を、関東圏の大学においてさらに活発にしていくきっかけづくりの場、学生が学生生活を見つめ直し主体的に臨んでいこうとするきっかけにしようと実施されました。

当日は、まずオープニングとして主催者あいさつの後明治学院大学や日本大学など 4 つの大学における学生 FD 活動の取り組みの紹介や「学生ＦＤ活動と大学を考える」と題して学生・教職員が登壇者となったパネルディスカッションが行われました。

お昼のランチ交流会をはさんで、午後は「しゃべり場ＮＥＸＴ」と題し「問題を抱える大学の授業をどのように改善していくか」というテーマで、全ての班が課題に対してどう解決していくかを話し合うしゃべり場が展開されました。どの班も、学生・教職員がお互いに忌憚なく意見をぶつけ合い、模造紙に成果をまとめていきました。

エンディングでは、「クリッカー」を用いて各班の発表に対して一人一人が聴いた感想を投げかけ、発表者も次へ向けての刺激を得ていました。

閉会後はカフェテリアにて懇親会を行い、多くの学生・教職員が交流を深めました。

「学生ＦＤ　ＮＥＸＴ　１」は、関東圏を中心に全国各地の大学から学生・教職員が参加し、関東圏で初めて学生主体で大学について考えるイベントとなりました。次回も関東圏で多くの学生が刺激を受け、主体的に学生生活をおくるきっかけとなるよう多くの学生・教職員の皆様の参加をお待ちしています。

パネルディスカッション

5～6 人班でのしゃべり場

エンディングでの成果発表

大学をよりよくする、力になる

主催：関東圏ＦＤ学生連絡会・法政大学教育開発推進機構 FD 推進センター
共催：関東圏ＦＤ連絡会（法政大学・東洋大学・立教大学・青山学院大学）

関東圏ＦＤ学生連絡会学生ＦＤスタッフ 募集中

平成 23(2011)年度より法政大学が中心となり、東洋大学・立教大学・青山学院大学と連携しながら、ら、「関東圏ＦＤ学生連絡会」を設立しました。上記 4 大学の学生・教職員との交流・活動を通じ、大学教育を考えよりよくしていく機会・取り組みを企画し実施していきます。本学では、学生ＦＤ研究チームメンバーの多くが関東圏ＦＤ学生連絡会のスタッフとしても活動に取り組んでいます。

下記の通り学生ＦＤスタッフを募集しますので、興味のある方は下記申込先までご連絡ください。

募集対象：学部生（特に１～３年生）および大学院生

活動内容：①大学教育を考えるイベントの企画・開催を通して、多くの学生を巻き込み主体性を高めていく。
②東洋大学生 FD 研究チームの活動・取り組み参加（学内でのしゃべり場開催や、授業向上の取り組みなどの活動）
③先生インタビューや、学生・教職員の意見交換会、公開授業開催など授業向上に向けた取り組みの実施。
④ニュースレター発行など学生の意識向上はかる広報活動の展開

募集期間：2012 年 4 月 5 日(木)～5 月 31 日(木)17：00

申し込み・問い合わせ先：　toyofd@toyo.jp　までメールにて申し込み・お問い合わせください。

※なお、申し込み・問い合わせの際は「氏名・所属・連絡先」を必ず明記してください。

★学生による授業紹介★

学生からの視点で、授業を紹介し学生の授業に対する意識を高めていく機会の一つになるよう東洋大学のおすすめ授業を紹介します。第１号は倫理学概説です。

倫理学概説Ａ・Ｂ（教職科目）

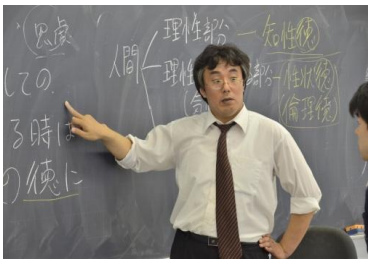
作成者：中島駿野（文学部教育学科）

◎担当教員名：中根 弘之 先生　　◎開講キャンパス：白山キャンパス
◎受講年度　：２０１１年度　　◎作成日　：２０１２年１月２４日

「良心・自由・徳」とは何か？　～倫理学の概念を学ぶ～

○ 授業の内容

この授業では、「良心・自由・徳」などといった私たちが日常生活で扱う概念を、時代ごとにもう一度学び直すことを通して倫理学の基礎を学びます（たとえば、「善さとは」「幸福とは」など）。学んできた内容は１タームの授業で２回出題されるレポートを作成することによって、自分の頭の中にフィードバックすることが出来ます。最終的には私たちが日頃直面している倫理的な問題を、正しい概念で思考できるようになることを目指す授業です。



担当の中根先生

○ オススメのポイント

中根先生の授業は説明がわかりやすいということが特徴です。もしわからないところがあればその場で質問できますし（「ここまででわからないところがある人いますか?」など、一定の区切りごとに確認してくれます）、その場で質問しなくともその日の出席カードの裏面に質問を書いて提出すれば、次の授業の冒頭で全体に対して必ず回答・補足があります。質問が多い時は、授業時間を多く使って説明してくれます。つまり、常に学生がどの程度理解しているかを先生が考えながら進めている授業です。受講学生数は少人数というわけではありませんが、一人一人の学生に丁寧に対応してくれます。「倫理学って、難しそうでとても心配！」と思っている学生もいらっしゃるとは思いますが、心配しなくても大丈夫です。安心して中根先生についていって下さい。

中根先生が時折織り交ぜる、冗談もこの授業の魅力の一つです！

新１年生、上級生、教職員の皆さん集まろう！！

「２０１２年度第１回しゃべり場」を開催します！

授業へ期待することって何？
課外活動（サークル等）の参加を通して、どう学生生活を充実させる？
大学卒業後、どんな進路を考えている？

学生ＦＤ研究チームでは、2009 年度から「しゃべり場」を開催しています。今年度第 1 回目のしゃべり場は、新１年生を主な対象として主体的に学生生活をおくるきっかけにしようと、授業や課外活動をテーマにした内容で開催します。

より多くの学生、教職員としゃべり交流することで、学生生活充実のヒントが得られます。
参加をご希望の方は、直接会場にお越しください。多くの学生・教職員の方々のご参加をお待ちしています。

日　時：2012 年【昼休みの部】４月 12 日（木）・13 日（金）12：15～12：50
　　【放課後の部】４月 20 日（金）　18：10～19：30
場　所：白山キャンパス６号館１階第３会議室
対　象：本学の全学生・教職員　　※参加費無料、事前申し込み不要、途中入退出可

詳細は、ホームページもご覧ください！　http://www.toyo.ac.jp/event/detail_j/id/5391/

チーム活動報告 ～学生ＦＤ研究チームの活動を紹介します～

明治学院大学連続企画「大学における真のリア充を求めて」に参加

2011 年 12 月 5 日(月)・12 日(月)、明治学院大学横浜キャンパスにて連続企画「大学における真のリア充を求めて」が開催されました（明治学院大学学生 CTC[CHANGE THE CAMPAS]、NSS[自然科学研究会]、教養教育センター付属研究所合同開催)。5 日は帝京大学の井上史子先生（帝京大学高等教育開発センター）の基調講演と帝京大学の学生による ED(Educational Development)活動報告・交流会、12 日は「自身の『思考』の問題点に気づく」という課題の下、井上先生によるワークショップが行われました。

5 日の井上先生による基調講演では、“Teaching から Learning へ教育のパラダイム転換”が起きている中での大学教育との関わり方、学生の変化が求められる背景など、大学について多角的に捉えることを学び、立場を越えて意見交換をし、考えを深めることが出来ました。また、帝京大学学生（SCOT）による ED 活動を含め、学生が主体となって授業改善に向けて取り組んでいる報告がありました。

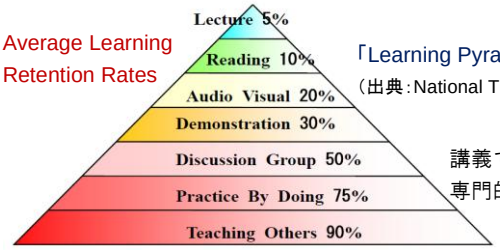
12 日のワークショップの内容は、ロジックツリーを用いて問題分析を行いました。分析方法は「原因が～だから、結果が～である」の思考で、問題点を引き起こす直接的な原因を考え、線で繋ぐというもの。さらに、書き出した事柄を引き起こす原因を書き、下の階層が「原因」、上の階層が「結果」となり、この作業を何度か繰り返して問題の構造を解析していきます。この作業によって、問題を発見し、明快に分析する力を身につけられました。

ふとした瞬間に「大学ってなんだっけ？」と疑問を抱いている学生は少なくありません。今や大学全入時代であり、学生も多様化しています。大学における「学び」や学生個人が感じる「違和感」や「疑問」、「これで良いの？」という学びの質を高めるきっかけ、充実した学生生活を実現してく方法を、大学を構成する全ての視点(学生・教員・職員）から考えていく良い機会となりました。自分自身を見つめ、見方・考え方を広げるチャンスになったと感じています。

（志村 歩）

帝京大学「SCOT トレーニング」を見学

2011 年 11 月 23 日に帝京大学の SCOT(Students Consulting on Teaching)のトレーニングの見学をさせていただきました。SCOT とは、学生による授業コンサルティングのことで学生が記録者あるいは観察者として、教室における先生の行動範囲、板書の仕方、グループ討論などに費やされた時間などを記録し、事実関係を正確に記録し教員に提供することが仕事とされています。23 日のトレーニングの前半は高等教育開発センターの土持ゲーリー法一先生、井上史子先生によるパワーポイントや資料を用いた講義でした。講義の内容は心理学の学習理論から知識獲得のメカニズムについて、学習者中心のシラバスについてなど大変内容の濃いものとなっていました。小休止を兼ねた軽食を挟んだ後、後半はグループワークが行われました。前半の講義の内容をもとに学生の視点から見た「学習者中心のシラバス」に必要なものはどういうものなのかを学生同士で話し合いました。「教員のプロフィールがあると親しみがわくよね」「参考書の価格が載っているとよい」など学生ならではの角度から様々な意見が挙げられました。SCOT で話し合われた内容は高等教育開発センターを通じて実際に学生の声として、大学側に伝えられる仕組みになっているそうです。



「Learning Pyramid」
（出典：National Training Laboratories）

講義では、このような専門的図表も用いられる。

参加させていただいて、講義もグループワークもとても勉強になり、今後の学内での活動にぜひ活かしたいと思いました。技術的な面での適切な指導者や声が届きやすいシステムなど、東洋大学学生 FD 研究チームの活動をよりよくしていくための環境づくりとして、取り入れたいと思う部分が多くみられ大変参考になりました。

（原田 鈴彦）

東洋大学学生 FD 研究チーム　News Letter　2012・4 №4
平成 24(2012)年 4 月 12 日　編集・発行：東洋大学 学生ＦＤ研究チーム　総務・広報担当
E-mail：**mlstudentfd@toyo.jp**　学生FD活動ホームページ：**http://www.toyo.ac.jp/fd//student_j.html**